

小学校英語の発音指導：理論と実践

— IPA、仮名、YN式HYBRID表記？ —

Teaching English Pronunciation in Elementary Schools
Theory and Practice: IPA, Kana, or YN-Hybrid?

長瀬 慶来

Yoshiki NAGASE

序 ひろしま型小学校英語

広島市では小学校における英語教育を教科として位置づけ、構造特区として2010年4月より本格実施に入った。本稿では、その広島市における音声指導の理論と実践を通して得られた様々な経験的諸事実を検討し、小学校英語における発音表記として望ましいものを提案していく。

1. 仮名（平仮名・カタカナ）表記

入門期用の様々な教材・辞書等には発音表記としてIPAの発音記号に加えて仮名表記が用いられていることが多い。仮名表記と一口で言っても、極めてシンプルなものから、「近似かな表記」（島岡方式）と呼ばれる非常に詳細で複雑なものまで、さまざまな種類の仮名表記がこれまで提案されてきている。本節ではそのさまざまな仮名表記による音声指導の実践例を検証することにより、仮名表記のメリットとその限界を明らかにしていく。

仮名表記のメリットとして、そのわかりやすさが一番に挙げられる。

例 【ドッグ】

日本人なら仮名で書かれたものは、「誰でも読める」という意味ではたしかにわかりやすい。しかしながら、わかりやすい（したがって誰でも読める）ということはすなわち、日本語だということである。たとえばカタカナで表されたものは外来語と同じであり、しょせん日本語として発音される運命である。

生徒が【ドッグ】という発音表記を見る→出力は当然 /doggu/ となる。

結果として、日本人の典型的誤りであるといわれている末尾子音での母音挿入が起こる（coda部分ですべて母音挿入が起こる）ことになる。これは入門期の発音指導としては最悪の結果である。

次に仮名表記が本当にわかりやすいのかどうかを検討したい。

仮名で英語の音を表記しようとする、日本語にない音をどう表記するかという根本的な問題に直面する。たとえば日本人が苦手とされる /r/ と /l/ の区別の問題がある。この二つの違いを仮名で表わそうとする場合、しばしば行われる一つの方策は、カタカナと平仮名を使い分けて表記するという方法である。この方法をとると、下に見るようにどうしても無理が生じる。

たとえば /l/ と /r/ が表記されている例を小学生用英和辞典で見ると、

例 flag ふラッグ frog ふらッグ (『キッズクラウン英和辞典』)

生徒の発音はどちらも / Φ uraggu/ となるのは避けられない。

また、s /s/ と th / θ / が表記されている例を小学生用英和辞典で見ると、

例 bus バス bath バス (『キッズクラウン英和辞典』)

これも同様に、たとえ平仮名とカタカナ書き分けたとしても、日本人にとってはどちらも「す」は「ず」で同じ音である。したがって生徒の出力はどちらも /basu/ となるのは必至である。

次に、文の表記例を見てみると、例えば次のようになっている。

There is nothing in the box.

でアリズナシングインだボックス (『キッズクラウン英和辞典』)

となっている。

これを小学4年生が読めば、

dea rizu nasingu in da bakkusu

となるのは明らかである。

これまで見てきたように、あくまで仮名表記に固執するとどうしても無理が生じるのは避けようがない。これは明らかに仮名表記のデメリットであると言えよう。

日本語で同じ音をカタカナと平仮名で書き分けても、結局のところ生徒の発音の出力結果は同じ音になるだけである。

2. IPA表記

次にIPA（国際音標文字）を用いた音声指導の実践とその有効性の検証に移る。IPAによる発音表記は、その厳密性と学問的正確さ故に、世界中のEFL/TESOLの現場で中上級クラス以上の発音指導に用いられている。

IPAは言語学的・音声学的に厳密に定義された普遍的記述デバイスであり、もし使用が可能であれば、IPAに勝る表記法はないと言えよう。

しかしながら、IPA表記は、学問的正確さ故に、初心者（特に小学生）には難しい、という問題点が存在することは否定できない事実である。IPAを小学生に教える状況を考えてみても、①教える教師側にIPAについての知識がほとんど無く、英語教員免許状を持たない小学校の教員にIPAの指導をして現場で使えるようにするというのは現実的ではない。②生徒側の知識としては、基礎となり得るも

3年次の教材を見ると、上述のように、訓令式であり、音韻論（音素論）的な表記（例えばta,ti,tu, te.to, ha,hi,hu,he,ho等）であるため、言語学的には優れて体系的であり、理論的には問題はない。しかしながら、英語の綴り字と対比してみた場合、英語が音声的であるのに対し、訓令式ローマ字のほうは音素的であるため音声表示（=発音）とは乖離していると言える。

② 4年生の教材

ローマ字 7

Rōmazi-hyō

A	I	U	E	O
a	i	u	e	o
ka <small>(kwa)</small>	ki <small>(ki)</small>	ku <small>(ku)</small>	ke <small>(ke)</small>	ko <small>(ko)</small>
sa <small>(sa)</small>	si <small>(si)</small>	su <small>(su)</small>	se <small>(se)</small>	so <small>(so)</small>
ta <small>(ta)</small>	ti <small>(ti)</small>	tu <small>(tu)</small>	te <small>(te)</small>	to <small>(to)</small>
na <small>(na)</small>	ni <small>(ni)</small>	nu <small>(nu)</small>	ne <small>(ne)</small>	no <small>(no)</small>
ha <small>(ha)</small>	hi <small>(hi)</small>	hu <small>(hu)</small>	he <small>(he)</small>	ho <small>(ho)</small>
ma <small>(ma)</small>	mi <small>(mi)</small>	mu <small>(mu)</small>	me <small>(me)</small>	mo <small>(mo)</small>
ya <small>(ya)</small>	yi <small>(yi)</small>	yu <small>(yu)</small>	ye <small>(ye)</small>	yo <small>(yo)</small>
ra <small>(ra)</small>	ri <small>(ri)</small>	ru <small>(ru)</small>	re <small>(re)</small>	ro <small>(ro)</small>
wa <small>(wa)</small>	wi <small>(wi)</small>	wu <small>(wu)</small>	we <small>(we)</small>	wo <small>(wo)</small>
n	ni	nu	ne	no
ga <small>(gwa)</small>	gi <small>(gi)</small>	gu <small>(gu)</small>	ge <small>(ge)</small>	go <small>(go)</small>
za <small>(za)</small>	zi <small>(zi)</small>	zu <small>(zu)</small>	ze <small>(ze)</small>	zo <small>(zo)</small>
da <small>(da)</small>	di <small>(di)</small>	du <small>(du)</small>	de <small>(de)</small>	do <small>(do)</small>
ba <small>(ba)</small>	bi <small>(bi)</small>	bu <small>(bu)</small>	be <small>(be)</small>	bo <small>(bo)</small>
pa <small>(pa)</small>	pi <small>(pi)</small>	pu <small>(pu)</small>	pe <small>(pe)</small>	po <small>(po)</small>

■上の表を見ながら、ローマ字で短い言葉を書いてみましょう。

ローマ字 6

■ローマ字のつづり方には、「ローマ字5（4年上）」で習ったつづり方のほかに、別のつづり方があります。

machi — machi

syasin — shashin

mangetu — mangetsu

zyūdō — jūdō

Huzisan — Fujisan

mikazuki — mikaduki

■地名などを大文字だけで書くこともあります。
Rōmazi-hyōを見て、読んで書いてみましょう。

ふじかわ FUJIKAWA	富士 FUJI	よしわら YOSHIWARA
KAGOSIMA	KAGOSHIMA	KAGOSHIMA
HUKUSIMA	FUKUSHIMA	FUKUSHIMA
TIBA	CHIBA	
MATUYAMA	MATSUYAMA	

出典：『広がる言葉』4下 教育出版

上記の 4 年次の教材を見てみると、訓令式に加えて、限定的ではあるがヘボン式 (chi, shi, ju, Fu, tsu, 等) が導入されていることが分かる。

訓令式とヘボン式では、上述のように高母音の前で音価が変化するもの、特に、た行、だ行、さ行、ざ行、は行、および拗音等で注意が必要である。たとえば、

た行は	訓令式	ta,	ti,	tu,	te,	to
	ヘボン式	ta,	chi,	tsu,	te,	to
さ行は	訓令式	sa,	si,	su,	se,	so
	ヘボン式	sa,	shi,	su,	se,	so

広島市の英語指導主事の話によると、現場では中学入学時に英語学習の最初の段階で、訓令式からヘボン式への転換‘儀式’が存在するという。

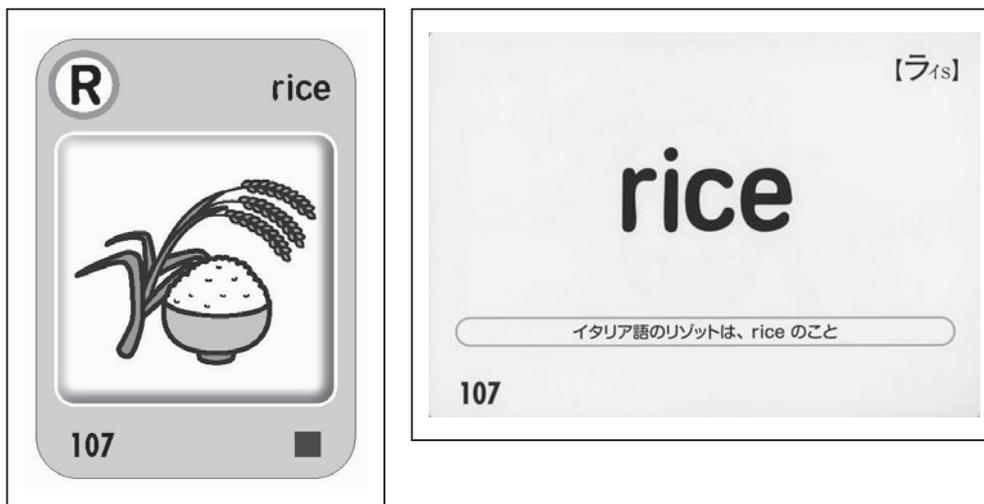
入門期にIPAを用いる必然性はあるのだろうか? 上述したような状況を考えると、その必然性はどこにもないと思われる。また発音表記に対する小学生あるいは小学校英語の指導者達の抵抗感等、現場で起こる様々なIPAアレルギーへの対策を含め検討すべき課題は多い。

3. YN式HYBRID表記

YN式HYBRID表記とは、現在広島市でひろしま型カリキュラムとして実践中の小学校英語教育用の発音表記法として開発した英語発音表記法である。それは、簡易IPA (ローマ字 + α) と仮名の混合表記であり、1 の仮名表記の簡便さと 2 のIPA表記の正確さを併せ持つ、いわばハイブリッドとして提案されたものであるため、YN式HYBRID表記と命名したものである。

YN式HYBRID表記は、5, 6 年用の絵単語カード (教師用) の裏側に印刷されている。一例を挙げると次のとおりである。

絵単語カード rice



YN式HYBRID表記の特徴を以下に簡単に示す。

YN式HYBRID表記は、カタカナとローマ字を知っている日本の小学生のために独自開発した発音表記であり、カタカナとローマ字 (簡易IPA) の混合表記である。

YN式HYBRID発音記号表

IPA表記	YN式HYBRID表記	
母音		
/i:/	eat	[イー]
/ɪ/	sit	[イ]
/e/	pen	[エ]
/æ/	apple	[æ]
/æ ɑ:/	ask	[æ アー]
/ɑ:/	palm	[アー]
/ɑ: ɔ/	pot	[ア(ー) オ]
/ʌ/	come	[ʌ]
/ɜ:r/	bird	[ɜ:r]
/ɜ:r ʌr/	hurry	[ɜ:r ʌr]
/ə/	about	[ə]
/ər/	doctor	[ər]
/ɔ:/	tall	[オー]
/ɔ: ɔ/	soft	[オー オ]
/ʊ/	book	[ウ]
/u:/	moon	[ウー]
/eɪ/	day	[エイ]
/aɪ/	eye	[アイ]
/ɔɪ/	boy	[オイ]
/aʊ/	house	[アウ]
/oʊ/	go	[オウ]
/ɪər/	ear	[イア]
/eər/	air	[エア]
/ɑ:r/	heart	[アー]
/ɔ:r/	morning	[オー]
/ʊər/	your	[ウər]
子音		
/p/	語頭	パ、ピ、プ、ペ、ポ 語末 [p]
		日本語にない母音の前⇒ [p]
/b/	語頭	バ、ビ、ブ、ベ、ボ 語末 [b]
		日本語にない母音の前⇒ [b]
/m/	語頭	マ、ミ、ム、メ、モ 語末 [m]
		日本語にない母音の前⇒ [m]
/t/	語頭	タ、ティ、トゥ、テ、ト 語末 [t]
		日本語にない母音の前⇒ [t]
/d/	語頭	ダ、デイ、ドゥ、デ、ド 語末 [d]
		日本語にない母音の前⇒ [d]
/n/	語頭	ナ、ニ、ヌ、ネ、ノ
		母音のあと語末 [ン]
		日本語にない母音の前⇒ [n]
/k/	語頭	カ、キ、ク、ケ、コ 語末 [k]
		日本語にない母音の前⇒ [k]
/g/	語頭	ガ、ギ、グ、ゲ、ゴ 語末 [ɡ]
		日本語にない母音の前⇒ [ɡ]
/ŋ/	語頭	はなし、(母音のあと)語末 [ン]
/tʃ/	語頭	チャ、チ、チュ、チェ、チョ
		語末 [tʃ]
		日本語にない母音の前⇒ [tʃ]
/dʒ/	語頭	ジャ、ジ、ジュ、ジェ、ジョ
		語末 [dʒ]
		日本語にない母音の前⇒ [dʒ]
/f/	すべての位置で	[f]
/v/	語頭	ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォ
		語末 [v]
		日本語にない母音の前⇒ [v]
/θ/	すべての位置で	[θ]
/ð/	すべての位置で	[ð]
/s/	サ、スイ、ス、セ、ソ 語末 [s]	
		日本語にない母音の前⇒ [s]
/z/	ザ、ズイ、ズ、ゼ、ゾ 語末 [z]	
		日本語にない母音の前⇒ [z]
/ʃ/	シャ、シ、シュ、シェ、ショ 語末 [ʃ]	
		日本語にない母音の前⇒ [ʃ]
/ʒ/	ジャ、ジ、ジュ、ジェ、ジョ 語末 [ʒ]	
		日本語にない母音の前⇒ [ʒ]
/h/	ハ、ヒ、フ、ヘ、ホ 語末	はなし
		日本語にない母音の前⇒ [ʒ]
/l/	すべての位置で	[l]
/r/	ラ、リ、ル、レ、ロ 母音の後	[r]
		日本語にない母音の前⇒ [r]
/w/	ワ、ウイ、wウ、ウエ、ウオ	
		日本語にない母音の前⇒ [w]
/hw/	[hw] (語頭で)	語末
		はなし
/j/	ヤ、jイ、ユ、イエ、ヨ 語末	はなし
		日本語にない母音の前⇒ [j]

表記例 dog [ド⁹ーッ⁹] PUPpy [pΛ⁹ピイ]

(大文字表記は、音調核を示す)

強勢記号

/ / 第一強勢 YN式HYBRID表記では、赤字、文字大で示す。

/ / 第二強勢 YN式HYBRID表記では、赤字、文字通常サイズで示す。

← シフト ストレス・シフト 後続する要素と連結することにより、ストレスの位置が移動(シフト)することを示す。

例: Jāpanése ⇒ Jāpanese wóman

注意: /teɪ/ ティ take [テイ^k]

/ti:/ ティー tea [ティ^ー]

/t/ ティ ticket [ティ^ket]

語と句の強勢パターンの違いを発音表記で文字の大小で明示的に示す。

表記例 HOT dog [ノ⁹ (ー) ッ tド⁹ーッ⁹] ホットドッグ

複合語強勢(左強勢) vs 句強勢(右強勢)

toMAto juice VS tomato KETCHup

[tə⁹メイトウ ジュー s] [tə⁹メイトウ ケ⁹ fə⁹ツp]

むすび

1～3で提案された、カナ表記、IPA表記、YN式HYBRID表記(IPAカナ混合表記)の三者を比較検討していく。

比較の際、前提となるものは次の3点である。

- ① 小学校5年生は、日本語の音韻体系は習得している。すなわち、仮名の読み書きは問題ない。
- ② 4年時にすでにローマ字は学習しているので、ローマ字を読める。
ただし、訓令式(音韻表示に近い)を学習しているので、ヘボン式(音声表示に近い)とは異なり、英語の表示とは多少距離がある。
- ③ 小学校5年生は、ひろしま型カリキュラムでは後期義務教育課程5年間の始まり(前期義務教育課程=小1年から小4年、後期義務教育課程=小5年から中3)に位置し、思考力・判断力・表現力の向上と発展をめざす時期と位置付けられている。すなわち、「気づき」とか「発見」をめざす学習が可能な時期だということである。

以上の3点を考慮に入れて、これまで考察してきた3種類の発音表記システムを比較検討すると、小学校英語での発音表記として最も有効で問題の少ないものはYN式HYBRID表記であると言えよう。

現在広島市内で実践中の各小学校からの評価においても、カードの裏に記されたYN式HYBRID表記はかなり好評で有効だというフィードバックが得られている。ひろしま型カリキュラムは、平成23年度から市内全校で本実施となった。我々の責務はこのひろしま型で蓄積された貴重なデータを分析し、その成果を教育界へフィードバックすることである。本稿で提案されたYN式HYBRID表記もそのひとつであると信じる。

[本稿は、日本英語音声学会九州沖縄四国支部第8回研究大会（於西南学院大学）で口頭発表したものに加筆修正を加えたものである。コメントをいただいた諸先生方に感謝申し上げます。本稿を纏めるにあたって、多くの方々から協力、コメントを戴いた。特にひろしま型英語カリキュラム策定委員会の委員の先生方および広島市教育委員会の指導主事の先生方からはたえず貴重なご意見をいただいた。記して厚く感謝する次第である。また本稿は、日本英語音声学会第12回全国大会（於宮崎市）で発表した題材の一部を発展させたものである（詳細は下記参考文献参照）。その際貴重なご意見をいただいた参加者の方々にも感謝申し上げます。]

参考文献

- Jenkins, Jennifer (2000). *The Phonology of English as an International Language*.
Oxford: Oxford University Press.
- 長瀬慶来 (2007). 「小学校における英語教育—広島市の挑戦」, 日本英語音声学会第12回全国大会口頭発表, 於宮崎市.
- 長瀬慶来 (2008a). 「小学校英語における発音指導とYN式HYBRID表記—ひろしま型小学校英語基礎語彙500語のHYBRID表記: 資料編」. 『山梨大学教育人間科学部紀要』第10巻.
- 長瀬慶来 (2008b). 「小学校英語の発音指導—IPA, 仮名, YN式HYBRID表記?」. 日本英語音声学会九州沖縄四国支部第8回研究大会口頭発表, 於福岡: 西南学院大学.
- 島岡 丘 (1994). 『中間言語の音声学—英語の「近似カナ表記システム」の確立と活用』東京: 小学館プロダクション.
- 下 薫, 三省堂編修所 編 (2003). 『キッズクラウン英和辞典』三省堂.
- 山田雄一郎 (2006). 「計画的言語教育の時代」『日本の英語教育に必要なこと—小学校英語と英語教育政策』. 大津由紀雄編, 慶應義塾大学出版会.
- 山田雄一郎 (2007). 「小学校英語にどう取り組むか—広島市の挑戦」『英語教育』5月号, 6月号, 7月号, 8月号, 9月号, 10月, 大修館.